

## 松川とお堀の水位差について

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報 No.13  
「富山市の遺跡物語」12ページ 調査概要報告7 西ノ丸北西隅の水堀跡より

### 2. 西ノ丸北西隅の水堀跡

平成23年12月～平成24年1月に松川雨水貯留施設築造工事に伴う発掘調査を行い、初代富山藩主前田利次が寛文元(1661)年に改修した西ノ丸北西隅の水堀の堀底を検出しました。

堀跡は、現地表面から5.2m下(標高2.5m)で、東西4m、南北10mを検出しました。水堀の底面は水平で、箱堀の形態です。深さは、西側で50cm、北側で67cmです。堀底の標高は1.83～2.0mです。西ノ丸には、かつて高さ約4.0mの土塁が存在しており、水堀の堀底から土塁の頂部までは約11mの高低差であったと推定されます。

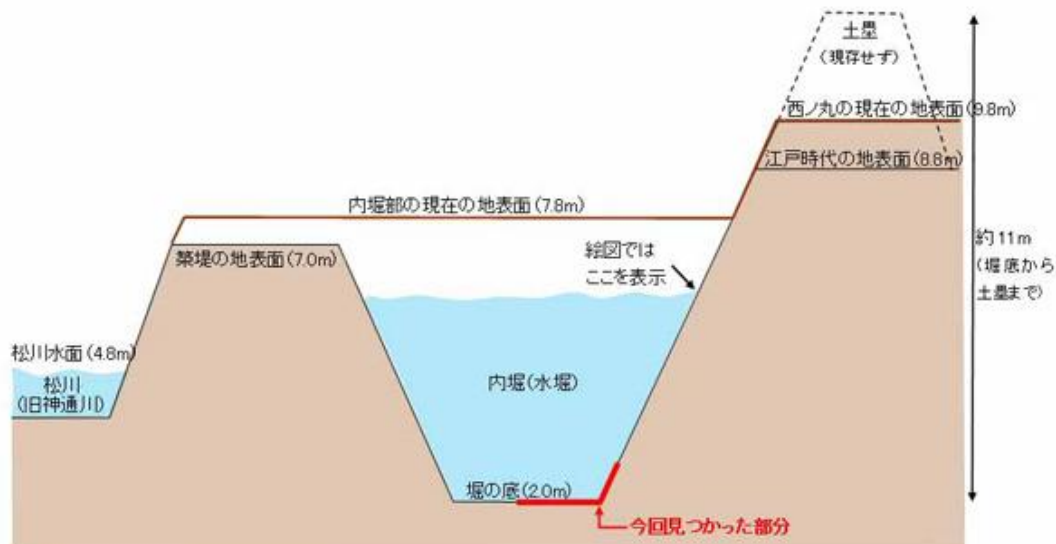
当時の堀の水位は不明ですが、現在の城址公園南側の堀の水位は標高6.9mですので、これよりわずかに低かったと考えられます。また、現在の松川(旧神通川)の水位は、七十二峰橋付近で平均水位標高4.8mであり、江戸時代の旧神通川の水位もこれに近いと推定されますので、水堀の水位が旧神通川の水位よりも少し高かったと言えます。

富山城において、水堀の構造を確認したのは今回が初めてです。堀底が確認されたことで、西ノ丸の西端がこれまでの復元よりも10m程西へ伸びることがわかりました。

(堀内大介)



検出した堀跡(南東から)



## ◆左の記事より

松川の平均水位標高 4.8m  
城址公園南堀の水位標高 6.9m  
 $6.9 - 4.8 = 2.1\text{m}$

水位差で2.1m お堀側が高い

富山県河川課から得た10年程前のデータでは…  
松川茶屋と親水のにわの中間地点辺りで

E L (標高) 4.66mとあります。

この数値をとった場合は

$6.9 - 4.66 = 2.24\text{m}$  お堀側が高いことになります。